

^{99m}Tc -PMT による肝胆道の描出は良好で、 ^{99m}Tc -PI や ^{99m}Tc -diethyl IDA と比較して、同等か、より優れていると考えられる。

体質性黄疸 5 例は、すべて Dubin Johnson's syndrome であるが、 ^{99m}Tc -diethyl IDA による肝胆道シンチグラフィも行った例では、 ^{99m}Tc -diethyl-IDA では胆道系の描出が不良であるのに比べ、 ^{99m}Tc -PMT では良好な排泄を示した。さらに、 ^{99m}Tc -PI による検査も行った例では ^{99m}Tc -PMT と同様の所見を示し、 ^{99m}Tc -diethyl-IDA とは異なる情報が得られることが分った。

43. ^{99m}Tc -pyridoxyl-5-methyl tryptophan による肝胆道シンチグラフィの臨床的検討

川嶋 寛昭 青木 洋三 勝見 正治
(和歌山医大・消外)
鳥住 和民 山田 龍作 (和歌山医大・放)

新しい肝胆道シンチグラフィのスキヤン剤 ^{99m}Tc -pyridoxyl-5-methyl tryptophan (以下、 ^{99m}Tc -PMT) を使用する機会を得たので、従来のスキヤン剤である ^{99m}Tc -PI とを control 群と比較検討し、慢性肝疾患例および肝転移のない担癌群とに本法を実施した。方法は約 12 時間絶食の被験者に ^{99m}Tc -PMT または PI を 3 mCi 静注後 90 分間検査を行った。

^{99m}Tc -PI との比較検討の結果、 ^{99m}Tc -PMT の方が胆管系の出現する時間が早く、肝における time-activity curve を検討すると、 ^{99m}Tc -PMT の方が早期に peak を示し、その後の count 数も ^{99m}Tc -PI に比し有意に低い値を示したことから、 ^{99m}Tc -PMT の方が肝への集積が速やかで胆管への移行も速やかであるといえる。次に肝疾患群と担癌群と control 群における ^{99m}Tc -PMT 静注後の肝の time-activity curve を検討すると 3 群とも peak に達する時間は同じであるが、その後の減衰は肝疾患群の方が有意に悪い値を示し、特に肝硬変群では悪い値を示したことから、肝疾患群では肝から胆管への排出遅延を起こしているものと考えられた。そこで各種肝機能検査値と 40 分後の count 数との相関について検討した結果、A/G 比とは負の相関を認めたが、他の検査値とは有意の相関は認められなかった。以上の検討の結果より、 ^{99m}Tc -PMT は ^{99m}Tc -PI より肝への取り込みが速く、しかも胆管への移行も速やかで、肝胆道シンチグラフィのスキヤン剤として、すぐれたものであり、また、慢

性肝疾患の肝障害の程度を判定する一つの検査方法となり得ると考えられた。

44. びまん性肝疾患の ^{99m}Tc -PMT による肝機能評価

杉村 和朗 檜林 勇 大西 隆二
井上 善夫 福川 孝 伊藤 一夫
杉村 千恵 西山 章次 木村 修治
(神大放・中放)
松尾 導昌 (県西宮・放)

正常 4 例、肝炎 12 例、肝硬変 9 例、胆石 10 例、その他 5 例、計 40 例を対象とした。 ^{99m}Tc -PMT 3.75 mCi 静注後 60 分間経時的に撮像し、同時にオンラインでコンピュータに入力した。静注 5 分、20 分に採血し、5 分および 20 分の血中停滞率を算出した。検査終了後全尿を採取し、尿中排泄率とした。ヘパトグラムを解析し摂取係数、排泄係数を算出した。

正常例では肝内胆管 9.4 分、総胆管 11.7 分、胆嚢 16.7 分、腸管 14.4 分。肝炎では肝内胆管 13.8 分、総胆管 14.8 分、胆嚢 24.4 分、腸管 18.2 分。肝硬変では肝内胆管は 9 例中 6 例しか描出せず、総胆管 18.6 分、胆嚢 18.8 分、腸管 27.5 分であった。びまん性肝炎では各部位の出現時間は遅延していたが、統計学的に有意の差は認めなかった。なお肝内胆管および総胆管は 40 例中 38 例に両方あるいはいずれかを描出した。

尿中排泄は 1.5~11.9% で、血清学的検査との相関は認めず、シンチグラム上腎は 1 例にしか認めなかった。

血中停滞率、特に 20 分値と Total-Bilirubin, GOT の間にはそれぞれ 0.833, 0.676 と良い相関を認めた。ヘパトグラム排泄係数と GOT の間には -0.446 と負の相関を認めたが、他の血清学的検査とは相関を認めなかった。ヘパトグラムピーク時間と血清学的検査との間には相関がなく、疾患群の間にも有意差はなかった。

これらの結果より、 ^{99m}Tc -PMT はびまん性肝疾患に対する診断に役立つ可能性があり、今後解析方法を改善していく予定である。